



フロイント産業株式会社
フロイントレポート
2024

2024年2月期
(2023年3月1日~2024年2月29日)



CONTENTS

プロフィール	1
フロントグループの歩み	2
フロントグループの価値創造サイクル	3
フロントグループのグローバルネットワーク	4
医薬品の製造プロセスと フロントグループの事業領域	5
事業セグメントの概要と社会との関わり	6
長期ビジョンの策定と 第9次中期経営計画の概要	7
トップメッセージ	8

事業の現場から

グローバル:グループ連携の強化	11
グローバル:Freund S.r.l.のご紹介	12
機械事業本部	13
化成品事業本部	14

技術開発の現場から

テクニカルサービス	15
化成品開発課	16

サステナブル経営基盤

モーダルシフトへの取り組み	17
役員紹介	18
コーポレート・ガバナンス	19
リスクマネジメント	20

フロントグループ

10カ年連結財務データ	21
会社・株式情報	22

免責事項:見直しに関する注意事項

このレポートは、当社の計画・見直し・戦略・業績などに関する将来の見直しを含んでいます。この見直しは、現在入手可能な情報から得られた判断に基づいています。したがって、実際の業績は、様々なリスクや不確実性の影響を受けるものであり、これらの見直しとは大きく異なる結果となることがあることをご承知おきください。将来の見直しに影響を与える要素には、当社の事業領域を取り巻く経済環境・競争圧力・関連する法規・製品の開発状況の変化・為替レートの変動などがあります。ただし、見直しに影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

注:このレポートの内容は、2024年2月期(2023年3月1日～2024年2月29日)の実績に基づいています。(ただし、一部2024年3月以降の情報を含まず)

PROFILE プロフィール

当社は、「ハード(医薬品製造装置、医薬品添加剤をはじめとする製品群)」と「ソフト(製剤技術)」のビジネスモデルを基礎に成長してまいりました。現在、日本を含むアジア、アメリカ、ヨーロッパに6社のグループ会社を組織し、医薬品分野のみならず非医薬品分野にも事業を展開。「創造力で未来を拓く[®]」の企業理念のもと、世界中の「必要不可欠」に挑戦し、笑顔で満たされる明日の実現に向けた事業活動を推進しています。

企業理念

『創造力で未来を拓く[®]』

グループ経営ビジョン

「なくてはならない」技術に挑み、 健やかで潤いのある生活を支える。

医薬品を安定供給できる環境。

食品の安全性をはじめ、日常に豊かさが保たれている環境。

フロントグループの使命は、世界中に健康で豊かな未来を届けること。

医療や食、人の生活が抱える課題を解決するためのモノからナレッジまで。

創造力と技術力で、世界中の「必要不可欠」に挑戦し、

笑顔で満たされる明日を切り拓きます。

長期ビジョン

ONE FREUND & BEYOND

NUMBER
ONE

特別な価値創造

それぞれの分野、
事業でNo.1を目指す

ONLY
ONE

完全顧客視点

顧客、社会にとって
Only Oneの存在を目指す

BE
ONE

ネットワーキング

グループが
ひとつになる

※「ONE FREUND」とは、フロントグループが大切にしている価値観



HISTORY of FREUND GROUP

フロイントグループの歩み

錠剤のフィルムコーティング技術に着目し、世界に先駆けて「自動フィルムコーティング装置」と「フィルムコーティング液」の開発に成功したフロイント産業は、1964年の創立以来、『創造力で未来を拓く[®]』という企業理念のもと、造粒・コーティング技術を基礎に、研究開発型企業としての道を進んでまいりました。

1964年～1969年 創業期

高度経済成長期の中で誕生

1970年～1989年 飛躍期

日本経済の成長にあわせ飛躍的に成長

1990年～2019年 拡大期

グローバル化により市場を世界に拡大

2020年～ 未来へ

創造力で未来へ飛翔

- 1964** **経営** 東京都千代田区神田司町に会社設立
- 機械** 自動フィルムコーティング装置のテスト機「FM-2型」、生産機「FM-5型」を開発・販売
- 化成品** 医薬品用フィルムコーティング液「FC-101」、「EC-101」を開発・販売
- 1969** **機械** 流動層造粒コーティング装置「フローコーター」を開発・販売

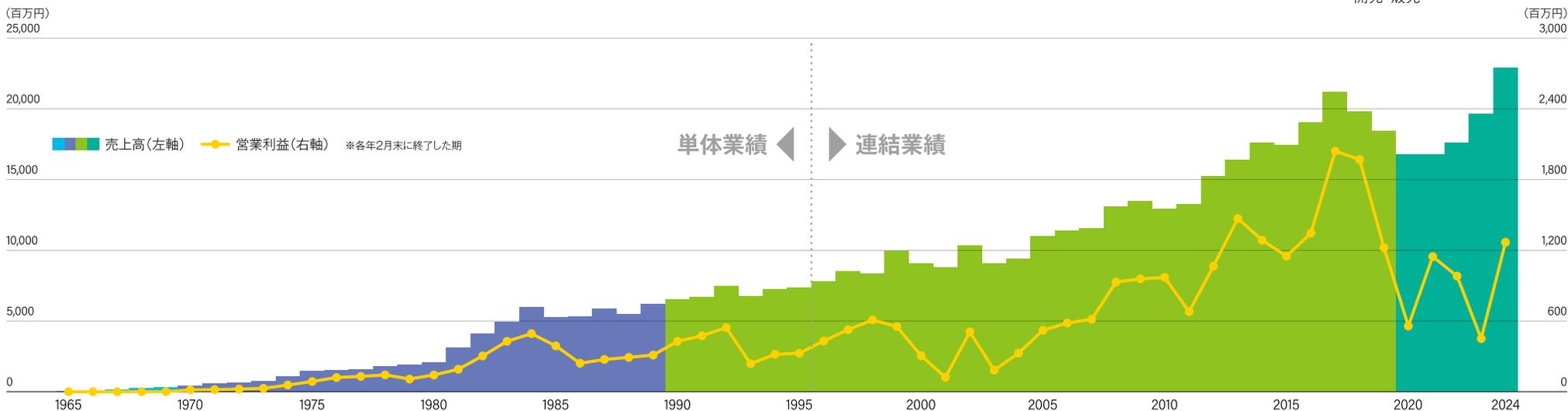
- 1971** **機械** 自動糖衣・フィルムコーティング装置「ハイコーター」を開発・販売
- 1978** **化成品** 食品品質保持剤「アンチモールド-102」を開発・販売
- 1980** **経営** フロイント化成(株)を埼玉県浦和市(現:さいたま市)に設立(2014年3月に吸収合併)
- 1987** **化成品** 多機能型食品品質保持剤「ネガモールド」を開発・販売

- 1992** **経営** 静岡県浜松市に浜松事業所・技術開発研究所を開設
- 1996** **経営** 日本証券業協会に株式を店頭登録(後のJASDAQ)
- 1997** **経営** Vector Corporation(米国)(現: Freund Inc.)を買収
- 2008** **機械** 新型錠剤コーティング装置「ハイコーター FZ」を開発・販売
- 2010** **経営** ターボ工業(株)(現: フロイント・ターボ(株))を買収
- 経営** Freund Pharmatec Ltd.をアイルランドに設立(2016年2月、Sigmoid Pharma Ltd.(アイルランド)に事業譲渡)
- 2013** **機械** 錠剤印刷装置「TABREX」を販売

- 2014** **経営** 創立50周年を迎える
- 機械** 連続造粒装置「グラニューフォーマー concept model」を開発
- 2015** **化成品** 口腔内崩壊錠向け医薬品添加剤「ノンパレル-105(150)」を販売
- 2016** **機械** 錠剤印刷装置「TABREX Rev.」を開発・発売
- 2018** **機械** 連続造粒装置「グラニューフォーマー」を開発・販売
- 2019** **経営** 合弁会社 Parle Freund Machinery Private Limited(インド)設立

- 2020** **経営** Cos.Mec S.r.l.(イタリア)(現: Freund S.r.l.)を買収
- 機械** データインテグリティシステム「Smart DI」を開発・販売
- 2021** **経営** 合弁会社 Freund-Chineway Pharmaceutical Technology Center Co., Ltd.(中国)を設立
- 機械** 錠剤コーティングPATシステム「TACT」を開発・販売
- 機械** 錠剤コーティング装置「ハイコーター HV」を開発・販売
- 2022** **機械** 赤外線水分計「Smart Mois」を開発・販売
- 経営** 東京証券取引所スタンダード市場へ移行
- 2023** **化成品** 環境配慮型食品品質保持剤「アンチモールド・マイルドEF」を開発・販売

売上高・営業利益推移



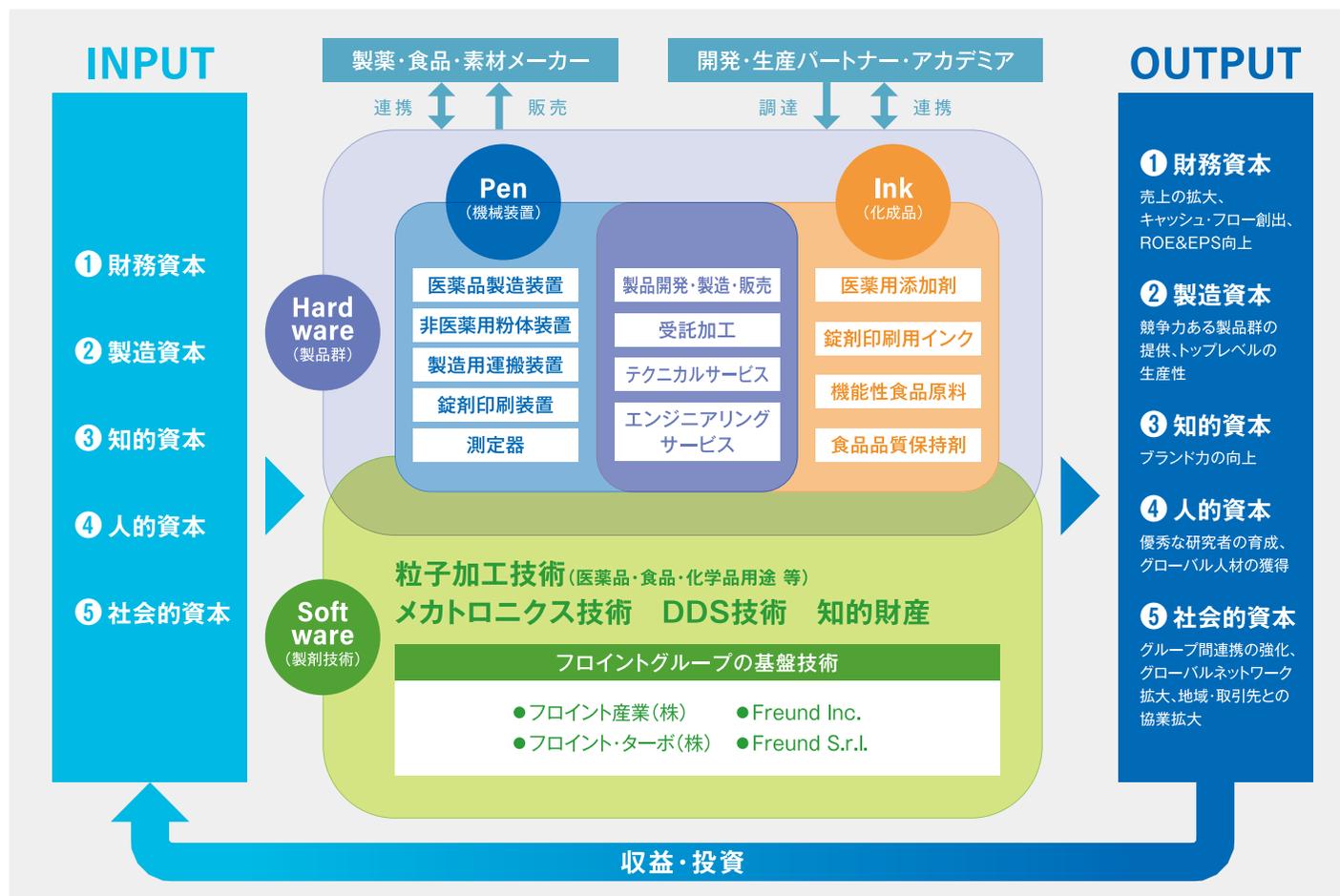
VALUE CREATION CYCLE of FREUND GROUP

フロントグループの価値創造サイクル

当社は、錠剤や顆粒剤といった固形製剤の製造装置事業と医薬品添加剤事業を祖業に成長してまいりました。医薬品分野で製剤装置と添加剤の両方を手掛ける、世界で唯一無二のユニークな研究開発型企業集団です。近年は、基盤技術である粒子加工技術を食品や産業用途などの非医薬品分野に展開するとともに、製剤の付帯的工程を担う搬送装置を事業ドメインに加え、グローバルな事業活動を推進しております。さらに、お客様のモノづくり現場で稼働する既存装置の課題解決を視野に独自のエンジニアリングサービスを立ち上げるなど、経営ビジョンに基づく持続的成長の実現に向けたチャレンジを推進しております。

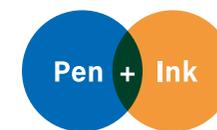
サステナビリティ方針

当社グループにとってのサステナビリティとは、『創造力で未来を拓く®』というフロントグループ企業理念に基づき、ステークホルダーと当社グループと社会の持続的な成長を目指すことです。異常気象、資源枯渇、森林破壊、人権問題等に配慮しつつ、企業活動の中で、お客様へ提供する価値を通じて貢献してまいります。また、D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）に配慮し、ESG（環境・社会・ガバナンス）の観点から長期的視野で持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



OUTCOME

- ステークホルダーへの価値提供** (Value provision to stakeholders)
- 株主・投資家** (Shareholders/Investors): 資産形成に寄与、資本市場での認知度向上 (Contribution to asset formation, improvement of recognition in the capital market)
- 取引先** (Customers): 良いパートナーとしてのさらなる協力関係、信頼できる製品の安定供給 (Further cooperation as a good partner, stable supply of reliable products)
- 従業員** (Employees): 人権の尊重、個々の成長促進、働きやすい安全な労働環境の提供 (Respect for human rights, promotion of individual growth, provision of a safe and comfortable working environment)
- エンドユーザー** (End users): 良い薬の享受、健康で豊かな生活の実現 (Enjoyment of good medicine, realization of a healthy and rich life)
- 社会** (Society): 市民社会、国際社会への貢献 (Contribution to civil society and international society)



機械「ペン」と化成品「インク」の事業モデル化

当社は、設立当初より、医薬品分野において、機械「ペン」、化成品「インク」に見立てた事業モデルにより、競合他社との差別化を図ってまいりました。今日、当社は、医薬品製造装置業界におけるリーディングカンパニーの地位を築いています。



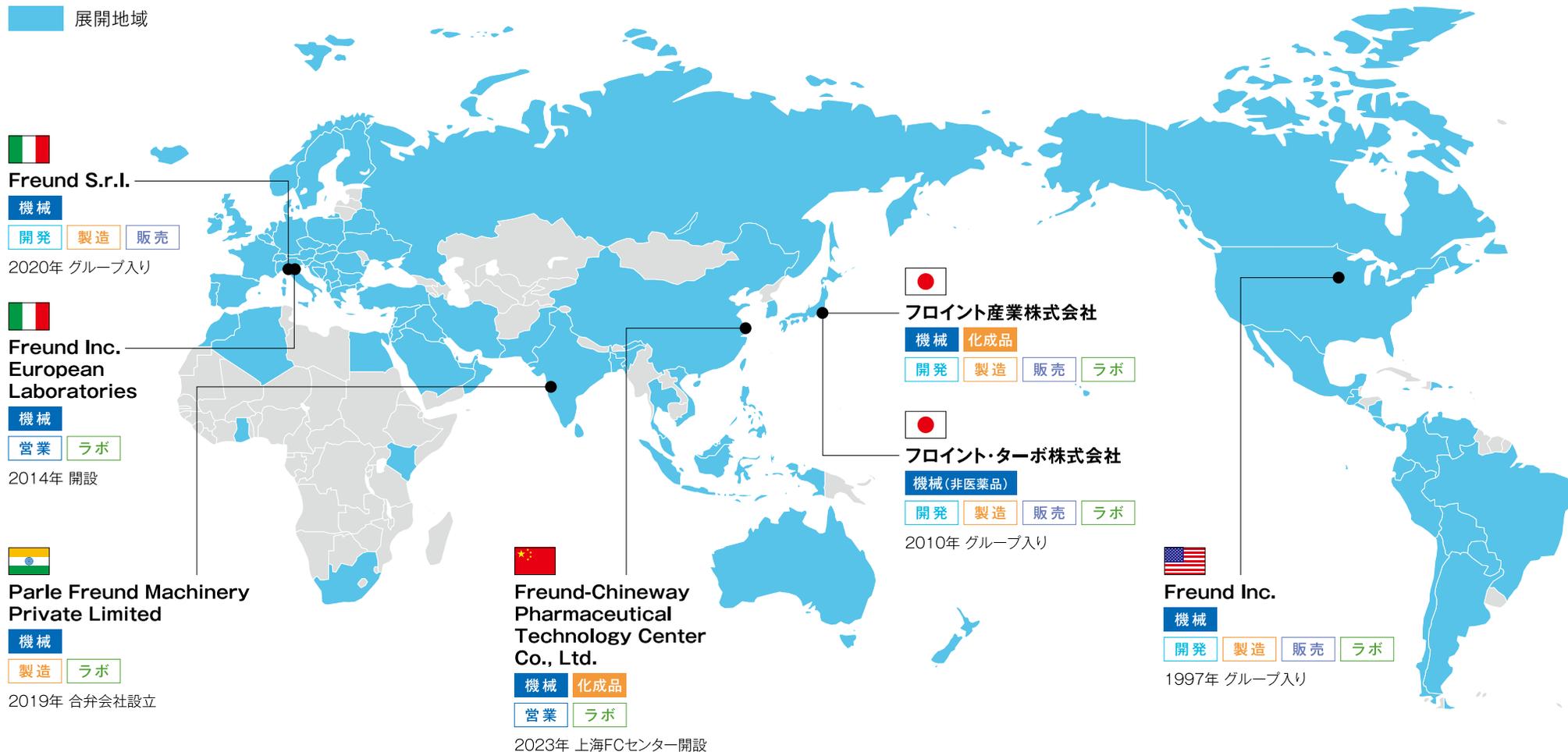
「ハード」と「ソフト」の融合によるユニークな付加価値創造

機械装置や化成品などの製品「ハード」の研究・開発だけでなく、その優れた性能を実現する粒子加工技術「ソフト」を有する当社グループは、「ハード」と「ソフト」を融合し、独創性豊かな自社製品群や受託加工、テクニカルサービスなどのユニークな付加価値創造を推進しています。

GLOBAL NETWORK of FREUND GROUP

フロイントグループのグローバルネットワーク

2021年7月、当社は中国に技術開発研究所である上海FCセンターを設立し、2023年6月に開所式を行い営業を開始しました。これにより、医薬品分野における当社グループのグローバルネットワークは、日本、米国、インド、イタリア、中国の5極体制となります。既存の日本、米国にインド、イタリアの製造拠点が加わったことにより、医薬品新興地域への事業展開が強化されました。また、巨大な医薬品新興市場である中国に対しては上海FCセンターで機械・化成品の両方を扱うことにより、当社製品の認知度向上につなげてまいります。これらを通じ、市場に適したより良い製品の提供やメンテナンスを含めたサービスの地域対応、質の高い現地エージェントの開拓を進めてまいります。5極体制の構築を礎にして、世界のグループ各社のシナジーを追求することで、世界シェアの拡大を目指してまいります。各拠点で展開する事業ドメイン、ならびに各拠点が有する機能は以下の通りです。



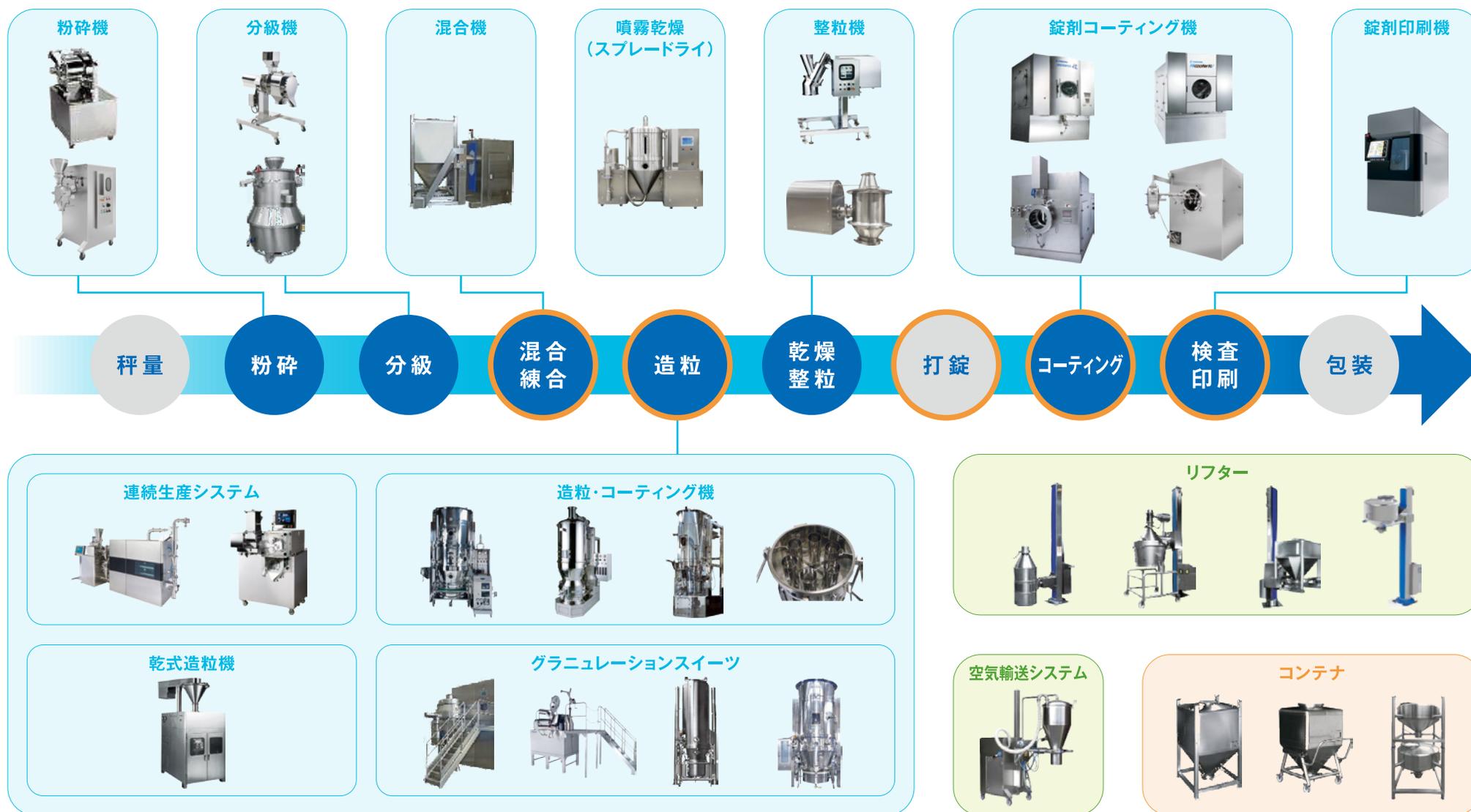
医薬品の製造プロセスとフロントグループの事業領域

当社グループは、医薬品用製剤（錠剤・顆粒剤など）を造る工程で使用される機械装置と添加剤などの化成品を主力製品としています。この分野で機械装置と化成品の両方を同一企業体で手掛けているのは、世界でも当社グループだけです。さらに、2020年11月、製剤の付帯的工程を担う搬送装置などを取り扱うイタリアFreund S.r.l.のグループ入りにより、当社グループの製品群が大きく広がりました。



製品詳細は
こちらをご覧ください

● 当社グループの機械装置が使用される工程 ○ 当社の医薬品添加剤等の化成品が使用される工程



事業セグメントの概要と社会との関わり

フロイントグループは、造粒・コーティング・粉砕・分級などの技術を基礎に、医薬品のみならず、食品やその他の産業用途などの非医薬品分野にも事業領域を拡大し、人々の健康や生活の質向上に貢献するチャレンジを続けています。

機械部門

医薬品、食品、化粧品などの様々な分野向けに、造粒・コーティング装置などを製造・販売

特徴

- 造粒・コーティング装置の販売シェアは、国内のみならず世界の中でもトップクラス
- アジア市場に加え、米国・イタリア子会社と連携し先進国・新興国においても事業を展開
- 製剤技術をベースに装置を開発
- 造粒・コーティング技術に、粉砕・分級技術を融合させることで、他産業分野向け装置の拡販にも注力

化成品部門

医薬品添加剤、食品品質保持剤、健康食品などを製造・販売

特徴

- 医薬品添加剤は、GMP*対応設備で生産
- 食品品質保持剤は、様々な食品の品質保持に利用され、安全な食生活に貢献

*GMP: Good Manufacturing Practice

医療の現場に提供する社会的価値

医薬品の付加価値を高め、医療の質の向上を支えます

造粒・コーティング技術を核に薬効の向上に貢献

半世紀以上にわたり、フロイント産業は造粒・コーティング技術をコアコンピタンスに、製品と製剤技術で、医薬品の付加価値向上に携わってきました。より多くの人々が付加価値の高い医薬品を利用できるモノづくりを行い、グループをあげて世界中の医療の質向上に貢献しています。

「飲みやすさ」の追求で高齢化社会に貢献

薬の薬効成分は全体の数%。残りは、薬の表面に被膜を作って苦みをなくしたり、飲みやすい大きさにするための添加剤でできています。フロイント産業は、独自の製剤技術によりOD錠(口腔内崩壊錠)関連の製品開発を強化し、ご高齢の方々の嚥下(えんげ)補助や飲みやすさの向上に貢献しています。

調剤取り間違いによる医療過誤の防止に貢献

調剤の現場では、外観や名称の類似した薬剤の取り違いなどの調剤過誤が生じるケースがあります。フロイント産業は、あらゆる錠剤に識別しやすい印刷を施すことで、世界中の医療過誤防止に貢献したいと考えています。そのために、業界初のコンセプトで新型錠剤印刷装置(検査機能搭載型)と専用インクを開発しました。



連続造粒装置
「グラニューフォーマー」



医薬品添加剤
「グラニューール F(ファイン)」



錠剤印刷装置
「TABREX Rev.」

食・健康に提供する社会的価値

より美味しく、より健康的に、人々の豊かな生活を支えます

できたての美味しさと安全・安心を追求

焼菓子やパン、和菓子などの包装に入っている小袋—これが食品の美味しさと安全・安心を保つ食品品質保持剤です。フロイント産業は、静菌効果としっとり感を保持する「エタノール蒸散」という独自技術を基礎として各種品質保持剤を開発し、食品のできたての美味しさと安全・安心をお届けしています。



食品品質保持剤
「アンチモールド・マイルド」

高度な製剤技術で有用食品成分を最大活用

健康志向の高まりとともに、サプリメントなどの健康食品への要望が高まっています。フロイント産業は高度な製剤技術をもって、有用成分がより効果的に機能するよう、また服用しやすくするために、健康サポートメーカーとともに人々の健康的な生活に貢献しています。



食品用コーティング剤
「キトコート」

先端産業に提供する社会的価値

新技術分野への挑戦で、より豊かで便利な生活を支えます

独自の粉砕技術で次世代の新市場を創出

フロイントグループの粉体微細化技術は、化粧品や食品など、日常生活を支える業界のモノづくりにも活用されています。例えば、多くの女性が日々使う化粧品のファンデーション。当社グループの装置で作る微細な粉体が、「健康的な肌」「きれいな肌」を演出しています。



高粘度対応湿式粉砕・分散機
「アクアターボTZ」

第9次中期経営計画の策定にあたり、 当社グループはこの先の10年を見据えた長期ビジョンを描きました。

長期ビジョン

ONE FREUND & BEYOND

当社グループの価値観である『ONE FREUND』のその先を目指し、以下をあるべき姿として、創立70周年となる2034年2月期の経営目標を連結売上高400億円、営業利益32億円、ROE10%以上といたしました。

【あるべき姿】

- イノベーションを創出し、世界中の人々の健康と豊かな生活に貢献する
- 機械事業はエアアカバレッジを拡大し、グローバルTOP3入りを目指す
化成品事業は日本NO.1スペシャリティカンパニーとなる
- 多様な人財が活躍、成長し続ける組織となる

この先駆けとなる新中期経営計画(以下、「新中計」)では、3つの基本方針を掲げ、2027年2月期に連結売上高250億円、営業利益16億円を目指します。また、持続的な成長のため、新中計期間における事業投資として、設備投資約50億円、研究開発投資約25億円、人的資本投資約7億円を計画しております。

● 長期ビジョン 経営目標(連結)

2024年2月期

売上高 229億円
営業利益 12.7億円
ROE 5.3%

2027年2月期

売上高 250億円
営業利益 16億円
ROE 7.0%

2034年2月期

売上高 400億円
営業利益 32億円
ROE 10%以上

第9次中期経営計画

創立70周年

● 第9次中期経営計画 重点施策

基盤事業の強化と拡大

グローバル

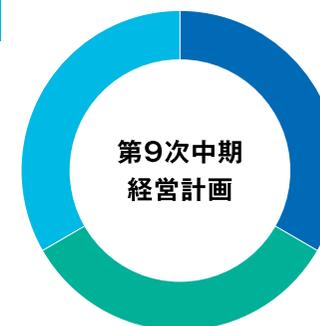
グループシナジーの加速
新興国市場開拓

国内機械

供給能力体制の強化
アフターサービスの深化

化成品

サプライチェーンの最適化
新型球形粒添加剤の拡販



経営基盤の強化

サステナブル経営
成長投資と安定配当の実現

新製品・新事業開発

グローバル

製品・サービスのローカライズ
事業領域拡大

国内機械

新技術の活用
新たな連続生産システムの確立

化成品

新規直打用添加剤の開発
新規環境配慮型品質保持剤の開発

創造力と技術力で世界中の「必要不可欠」に挑戦し、 笑顔で満たされる明日を切り拓いてまいります。

2024年4月、当社は創立60周年を迎えることができました。ステークホルダーの皆様への長年にわたるご支援に心より感謝申し上げます。60周年を機に、『創造力で未来を拓く®』という当社の企業理念にあらためて向き合い、それを実践していくために経営ビジョンを見直すとともに、『ONE FREUND』という価値観を長期ビジョンとしてアップデートいたしました*1。当社グループの事業活動概況、2024年3月からスタートした第9次中期経営計画、そして創立70周年を見据えた新たな取り組みについて、代表取締役社長の伏島巖に聞きました。

*1 新たな経営ビジョン、ならびに長期ビジョンにつきましては、P.1をご参照ください。

代表取締役社長 伏島 巖

「なくてはならない」技術に挑み、
健やかで潤いのある生活を支える。



2024年2月期 事業環境の概要

日本市場では、当社グループの主要ユーザーである医薬品業界において社会問題となっている医薬品供給不足を補うべく、ジェネリック医薬品メーカーを中心に、業界全体で生産増強や老朽化対策に伴う旺盛な設備投資需要が好調でした。

世界市場は、先進国での高齢化進展と新興国での人口増加・医療水準の向上を背景に、今後も成長することが予想されています。当社グループでは、2023年6月に中国での拠点活動を開始し、グローバル5極体制が整いました。また、海外グループ会社のFreund-Vector CorporationをFreund Inc.*2に、Cos.Mec S.r.l.をFreund S.r.l.*2に商号変更し、グループ間の連携強化とシナジー創出、グローバル市場における『FREUND』ブランドのプレゼンス向上のための取り組みに着手いたしました。

*2 2024年6月3日付でFreund Inc.に、2024年3月29日付でFreund S.r.l.に商号変更いたしました。

2024年2月期は 過去最高の売上高となりました。

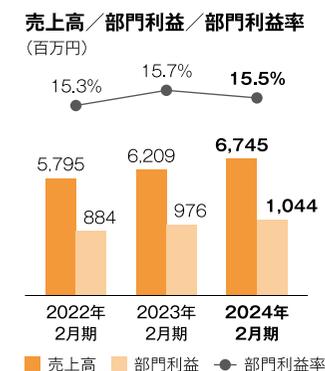
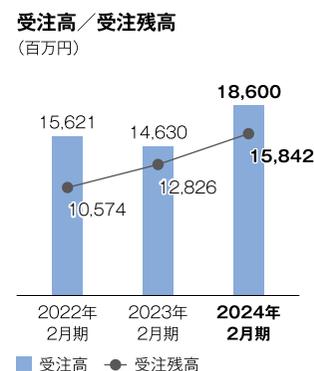
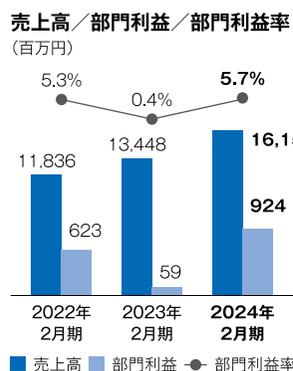
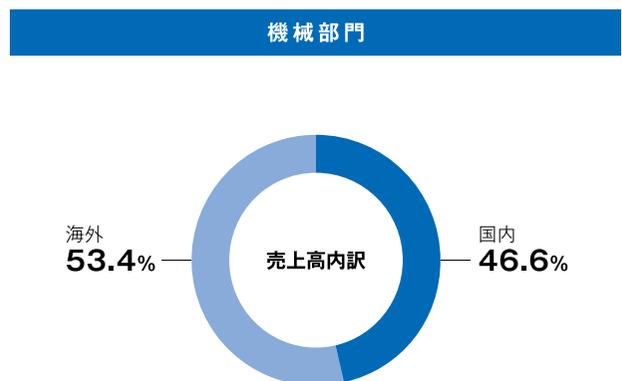
機械部門の活動概況

医薬品分野:国内外とも好調に推移し、過去最高の売上、受注高となりました。日本市場では、業界全体、特にジェネリック医薬品メーカーによる設備投資が活発に推移し、協力会社様とともに、早期納入に努めた結果、売上高は前期を大きく上回りました。また、期末受注残高は過去最高となりました。

海外市場では、サプライチェーンの混乱や原材料価格の高騰などの影響を受けてきましたが、リードタイムも正常化し、回復局面に入りました。Freund Inc.は中南米地域における販売も伸長し、黒字となりました。Freund S.r.l.は新興国を中心に案件獲得が進み、事業活動は計画通りに進捗いたしました。

非医薬品分野:フロイント・ターボは増収増益となりました。受注高は前期に大口案件を受注したため、対前期比で減少しましたが、受注残高は例年並みを確保いたしました。

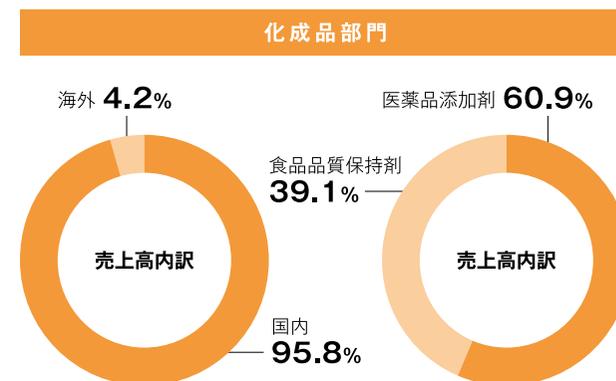
部門別業績の推移



化成品部門の活動概況

医薬品添加剤:日本市場を中心に、医薬品添加剤主要製品の販売が引き続き好調で、過去最高の売上高となり、生産稼働率も高水準を維持いたしました。

食品品質保持剤:パン向け販売は減少したものの、インバウンドを含めた人流の回復もみられ、お菓子需要は着実に持ち直してきており、前期を上回る好調な販売を維持し、過去最高の売上高となりました。また開発面では、環境課題を意識した製品を上市し、次世代に向けた取り組みに着手しております。



第9次中期経営計画について

新中計では、①基盤事業の強化と拡大、②新製品・新事業開発、③経営基盤の強化の3つを基本方針としています。

① 基盤事業の強化と拡大

機械部門:医薬品分野では、海外グループ会社の社名、製品ブランドの統一、販売ネットワークの整理・統合に取り組み、グループ間シナジーの創出に注力し、今まで以上に新興国・地域への参入を図ります。日本市場では、供給能力の拡大と品質、納期、コストの向上を目指してまいります。また、お客様生産設備の安定稼働の観点から、アフターサービスの深化に取り組みます。

化成品部門:医薬品添加剤では、2026年までに当社浜松事業所の敷地内に新工場を建設する予定です。これにより、拡大する需要に対する安定供給と品質管理体制の強化を図ります。また、お客様の製造コスト低減及び時間短縮に貢献する新型球形粒添加剤を2024年内に発売予定です。食品品質保持剤では、サプライチェーンの最適化によるコストダウンと品質の維持の両立に努めてまいります。

2025年2月期

連結業績予想の概要

	2024年2月期(実績)	2025年2月期(予想)	前期比増減	
			(百万円)	%
売上高	22,903	23,500	+596	+2.6
営業利益	1,270	1,100	△170	△13.4
経常利益	1,285	1,100	△185	△14.4
親会社株主に帰属する当期純利益	764	770	+5	+0.7
1株当たり当期純利益(円)	45.46	45.76	+0.30	+0.7
設備投資額	732	—	—	—
減価償却費	539	—	—	—
研究開発費	634	—	—	—

② 新製品・新事業開発

機械部門:医薬品分野においては、グローバル5極体制を活かし、対象国に適した製品・サービスの提供を推進し、ローカライズに取り組むとともに、日本では、AIを用いた省力化や自動化による品質管理や安定生産、連続生産システムの開発に取り組みます。非医薬品分野では、エネルギー向けのソリューションとして電池関連製品のグローバル展開を加速いたします。

化成品部門:医薬品添加剤では、製剤開発期間短縮や生産効率化につながる直打用の添加剤開発を進めます。食品品質保持剤では、既に取り組みを進めている環境配慮型製品の開発を強化いたします。

③ 経営基盤の強化

当社グループのサステナビリティ方針に則り、人財育成、エンゲージメント向上、地球環境保全、ダイバーシティ推進というテーマへの取り組みを通じて、中長期的な当社グループの持続的成長と企業価値の向上を図ります。

配当方針として、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと位置付け、持続的な成長に向けた投資

と安定的な配当のバランスを維持してまいります。2025年2月期は創立60周年記念配当として、5円の増配を予定しております。

ステークホルダーの皆様へ

「『なくてはならない』技術に挑み、健やかで潤いのある生活を支える。」という新経営ビジョンのもと、「その先を目指す」という想いを込めた『ONE FREUND & BEYOND』という長期ビジョンを設定いたしました。当社グループは創造力と技術力を通じ、お客様はもちろん、お客様の先にいらっしゃる患者様、ユーザーの皆様にも喜んでいただける付加価値を創出し、笑顔で満たされる明日を切り拓いてまいります。

創立60周年記念ロゴに込めた想い

フロント産業のこれまでの歩みを重んじるクラシックさと、フロントグループのこれからの輝く未来にワクワクする様を表現する60周年記念ロゴを策定いたしました。「0」を地球に見立てグローバル展開にさらに注力することを表し、地球からの日の出は、現代の逼迫した医薬や食料に対する安定供給を示唆しており、輝く明るい未来につなげたいとの想いを込めました。



グループ連携強化を通じてより強固なグローバル5極体制の構築を目指す 海外統括部に今後の取り組みを聞きました。



アジアでの機械ビジネスの拡大と
グローバルなグループシナジー創出の
加速化に全力で取り組んでまいります。

フロント産業株式会社
海外統括部長

中山 洋

海外統括部は、海外市場での機械ビジネスを担当していますが、大きく2つの役割があります。1つ目が、アジア地域での当社グループ製品の販売と技術サポートの実施です。2つ目は、グローバル5極体制のもと、グループ会社間の連携を強化し、シナジー効果創出を加速することです。

アジア地域では、フロント産業と米国Freund Inc.の機械を販売してきましたが、いよいよイタリアFreund S.r.l.のパウダーハンドリング機などの受注が実現しており、今後アジア新興国での受注増を図り、ビジネスを拡大していきます。また、インドネシアなどで新規有力代理店を追加しています。この地域での技術支援力の強化や技術陣の国際化を図るため、新規に海外国籍の技術者2名を採用しました。

2020年末にグループ入りしたFreund S.r.l.とのシナジー創出はコロナ禍などの影響もあって遅れがありましたが、急加速しています。25/2月期は、当部が中心となってアジア地域でのFreund S.r.l.製品の販売をますます推進するとともに、フロント産業、Freund Inc.、Freund S.r.l.の連携強化をリードします。また、ブランド統一を機にグループ一体感の醸成と、より一層の販売・マーケティングでのシナジー創出を実現してまいります。

2024年3月、Freund S.r.l.はWagner氏を新社長に迎えました。新しいアイデアとチャレンジが既に進行しています。新興国市場に強みを持つFreund S.r.l.の製品ラインナップに鍍剤コーティング機が加わりました。今後も、新製品の開発・技術をグループ一体となって支援し、日米欧のグループ3社の技術開発の一元化を図り、顧客・市場に近い分野からのシナジー強化を遂行してまいります。



フロントグループ本社の
プロダクトエンジニアリング部門として、
技術面で5極化体制を支えてまいります。

フロント産業株式会社
海外統括部 技術課 主任

田平 雄也 (写真右)

フロント産業株式会社
海外統括部 技術課

メイミッツ ノールイン (同左)

田平 2009年の当社入社後、日本国内での機械の設置や試運転、メンテナンスなどのアフターサービスを担当してきましたが、2021年から海外統括部に所属しています。当初は営業課の中の技術担当だったのですが、現在は24/2月期に新設された技術課に所属しています。

メイミッツ 私はミャンマー出身で、2023年11月に入社しました。現在はOJTの期間で、図面や見積りの作成などを担当しながら、日本国内の現場で機械の設置から導入まで立ち会わせていただき、プロダクトエンジニアリングの勉強をしています。技術課の方々は英語でも積極的にコミュニケーションを取ってください、お互いにリスペクトしながら仕事ができそうですし、外国人でも働きやすい職場だと思います。日本語と英語に磨きをかけ、技術面もしっかり学んで、信頼されるエンジニアになりたいと思っています。

田平 私たちの仕事の現場では、同じ機種でもお客様の要望が異なるため、オーダーメイドに近い対応が必要となります。毎回新たな気持ちで仕事に向き合うことができ、私にとってのモチベーションにつながっています。

フロントグループの本社にプロダクトエンジニアリング部門として技術課が創設されて、グローバル5極体制の土台が整ってきました。コロナ禍が収束し、海外とコミュニケーションを直接取れるようになりましたので、5極間でシナジーを発揮できるよう、技術的な連携を追求したいと考えています。

2024年3月に新社長を迎えたFreund S.r.l. (イタリア)。 経営担当、管理・財務担当の取締役2名に新体制構築への抱負を聞きました。



Freund S.r.l.
General Manager
Alessio Diego Wagner

プロフィール

機械工学を専攻したのち、2005年に伊工作機械メーカーに入社。ラテンアメリカ・ヨーロッパ地域の営業に従事した後、2009年に伊ケーブル電線会社のアジア地域営業責任者に就任。その後、伊産業用機械総合メーカーで医薬品市場向け機器を含む複数の領域における要職を担う。2024年3月、Freund S.r.l.の社長に就任。

“グループビジョンの理解浸透を図るため 社員一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしたい”

Freund S.r.l.は新たな経営体制でスタートしました。世界を市場とするフロイントグループの一員として事業活動をさらに強化するにあたり、2つの部門を特に強化します。それは営業部門とアフターセールス部門です。特に、販売後のサービスをいかに高めていくかは、市場での成功の鍵だと考えています。当社が培ってきた様々な経験や知見、それらに基づくブランド力により、お客様に価値あるサービスを提供することが重要です。

私は新社長として、事業活動を支える社員一人ひとりのマインドを変えていきたいと考えています。経営体制が変わったこともあり、なかには変化や将来に対する不安を抱いている社員もいると思いますが、フロイントグループの支援のもと、前向きなメッセージで社員を導き、変化することを楽しみながら、一丸となって目標達成を目指す所存です。

Freund S.r.l.はフロイントグループの完全なる一員として、これまでにない付加価値をフロイントグループにもたらしていきます。社員一人ひとりとのコミュニケーションを大切に、グループの経営ビジョンの理解浸透に努め、ビジョンを実現していきたいと考えています。



Freund S.r.l.
Administration and Finance Director
伊藤 誠

プロフィール

1984年に日本の大手総合商社に入社、主にコンシューマー事業部門で海外事業を担当。その間、イタリア、英国に駐在。その後、グループ事業会社やローカルパートナーとの共同事業の役員として事業管理業務を担当。2022年に当社に入社し、本社でイタリア事業管理サポートを担当。2023年、Freund S.r.l.への出向を経て、2024年3月より現職。

“グループビジョンに沿って社員に 変化とチャレンジを促すことが重要なミッション”

1991年に設立された旧Cos.Mec S.r.l.はその後、事業規模を拡大させ、2020年にフロイントグループに仲間入りしました。2024年3月には新経営体制への移行とともに、社名をFreund S.r.l.に変更し、新たな一步を踏み出しました。フロイント産業の技術支援により新しい装置が加わり、また、当社のパウダーハンドリング機はフロイント産業、Freund Inc.を通して販売地域が拡大されています。今後、より一層、連携が深まり、フロイントグループに貢献できると期待が膨らんでいます。

こうした新たな当社の方向性に関し、社員はWagner社長と経営陣の考え方を良く理解しており、とても心強く、また、ありがたいと感じています。社員が自ら考え、従来と異なるやり方や働き方に積極的に取り組むことが、当社のみならず、フロイントグループのさらなる成長につながると思っています。

私の役割は、管理体制の充実・強化をさらに進めるとともに、社員を支援し、士気を高めることです。すべての社員に対して、公正・公平であることを第一義的に考え、社員一人ひとりと積極的にコミュニケーションを図っていきます。フロイントグループの経営ビジョンに沿って、次のステージに向けて、社員に変化とチャレンジを促していくことが重要なミッションであり、着実に遂行してまいります。

造粒・コーティング装置などの機械製品を担当する機械事業本部に 事業活動や開発の現状について聞きました。



社会課題の解決も見据え、「自動化」に注力することで新しい技術を取り込み、健やかで潤いのある生活の実現に貢献してまいります。

機械事業本部 本部長／取締役

本田 稔昭

2023年3月、多様化するニーズや課題に対して迅速に対応し、事業の成長と安定を図るため、当社は事業部別組織に再編し、機械事業本部を設置しました。

24/2月期は、ジェネリックメーカーの生産設備増強を中心に国内受注が好調に推移し、受注残高も過去最高を更新しました。半導体をはじめ、一部の部品・部材が調達できず、調達から出荷までのリードタイムが長期化する状況は今なお続いておりますが、部品在庫を戦略的に持つなどして、お客様にはほぼ計画通りに納品することができました。

営業面では、高い生産性に加え、省人化にも貢献できる「HICOATER HV（以下、HC-HV）」が受注を牽引しました。HC-HVは錠剤コーティングPATシステム「TACT」を採用し、錠剤のサンプリング、重量の測定、終点管理までの一連の工程を自動で行うことができます。AIなどの技術を活用した「自動化」やDX推進を提案し、既存の機械市場をも視野に入れたソリューション展開を目指しています。

当社のお客様は主に製薬会社ですが、BtoBにとどまらず、その先の薬剤師や患者の方々への貢献を見据え、BtoBtoCを意識した製品開発を推進してまいりました。今後はさらに一歩踏み込み、労働人口の減少が見込まれる状況においても医薬品の安定供給を支え、社会課題の解決に貢献していきたいと考えています。日本にはセンサーやAI、ロボットなどの優れた技術がありますので、そうした技術を当社の製品に取り込みながら、「健やかで潤いのある生活を支える」に貢献してまいります。



「TACT」を足掛かりに「自動化」を追求し、医薬品業界のソリューションにつながる製品開発を目指します。

機械事業本部 機械開発部 自動化推進課

武内 優貴

当社の「自動化」には、人が監視する工程を自動化するという意味合いを持たせていますが、その第一歩となった製品が「TACT」です。その開発過程では様々なパターンを実施し、試行錯誤を繰り返すことで製品化にたどり着きました。

「自動化」へのニーズは今後ますます高まると考えられます。AI、ロボット、ビッグデータ、IoTなどの様々な最新技術を組み込むことでさらなる「自動化」を目指し、医薬品業界のソリューションにつながる製品開発に取り組んでまいります。



AIを活用した製品の安定化などの新たな領域でDX推進に取り組み、医薬品の開発と安定供給に貢献します。

機械事業本部 機械開発部 DX推進課

課長 安達 岳郎

組織再編により、機械ならびに制御関連の開発が機械開発部に集約されたことで、コミュニケーションの頻度、質ともに向上し、以前よりも開発がスムーズになっていると感じます。

DX推進課では、AIによる製品の安定化という領域に取り組むべく、検討を進めています。現在は、異常が発生する前にAIが異常を検知し、製品不良を防止するためのシステム開発に取り組んでいます。今後ともAI活用を通じて、安心して服用できる医薬品の開発と安定供給に貢献してまいります。

医薬品添加剤や食品品質保持剤の開発・製造を担う化成品事業本部。 その事業基盤について聞きました。



**医療と健康の未来に貢献すべく、
製品の安定供給に向けた生産・供給基盤の
強化に取り組んでまいります。**

化成品事業本部
本部長／取締役
守口 壽文

24/2月期、医薬品の経口剤に使用される医薬品添加剤は、生産増強に向けて国内の大口ユーザーからの受注が増えたこともあり、過去最高の売上高を達成しました。食品品質保持剤は、コロナ禍の落ち着きにより経済活動が徐々に回復したことで、インバウンドを含めて、お菓子需要が着実に持ち直しており、同じく過去最高の売上高となりました。

化成品事業本部にとって、24/2月期は製品の安定供給が大きなテーマでした。開発部門と連携して、海外での生産・供給体制の整備に注力しましたが、原料調達に遅延が生じたことで、調達先の変更やそれに伴う生産調整などに苦労しました。当事業本部が営業・開発・供給の全体をコントロールできたことで、販売計画通りの業績を実現できたと評価しています。

25/2月期以降は、安定供給への取り組みに一層注力してまいります。2024年問題やBCPの観点も考慮し、(株)メディセオと共同でモーダルシフトに取り組んでいますが、サプライチェーン全体のプラットフォーム再構築にも取り組んでまいります。

私たちのお客様は製薬メーカーですが、その先には患者の方々がいらっしゃいます。企業理念を常に念頭に置いて、供給責任を果たしてまいります。



**サプライチェーンの可視化と共有に
『ONE FREUND』で取り組み、
お客様への安定供給を実現しています。**

化成品事業本部 添加剤サプライチェーン部
部長 **東馬 靖和**

添加剤サプライチェーンに関わる営業・調達・生産・品質管理部門の担当者が四半期ごとに集まり、製品ごとに生産・試験・販売・在庫計画を策定しています。各部門の担当者が自ら考え、部門間で議論を重ね、合意のもとに計画をつくり、サプライチェーン全体を可視化・共有しています。当社の場合、原料の大半を海外から調達しています。簡単ではありませんが、ITシステムなどに依存するのではなく、まさに『ONE FREUND』によるこうした取り組みが当社の強みだと感じています。



**化成品事業本部の総合力を発揮することで、
製品の安定供給に努め、新たなステージに
挑んでまいります。**

化成品事業本部 添加剤営業部
部長 **戸梶 雅文**

24/2月期、お客様への供給が滞るのではと不安になることもありましたが、化成品事業本部が設置され、サプライチェーン全体を通じた密なコミュニケーションが可能になったことで、何とかこの課題を乗り越えることができました。プラットフォームの再構築やモーダルシフトなど、当社は新しいステージに向けたチャレンジに取り組んでいます。製造工程を変更すれば、お客様にも影響が生じますので、営業担当として、遅滞なく確実にお客様に製品をお届けすることに注力いたします。

「ペンとインク」を駆使し、造粒・コーティング技術の知見・ノウハウをお客様に展開するTS課に聞きました。



写真左より:菅野、齋、瀧上、味園

浜松テクニカルセンター TS課

課長

味園 隼人

菅野 琢磨

齋 柏豪

瀧上 友佳子

味園 課名であるTSは、テクニカルサービスの略です。当課では、お客様に当社の機械装置を納品後、その試運転や動作・性能確認などを行うとともに、お客様に機械操作や製剤に係るノウハウを提供する業務を担っています。また、機械開発課と共同で、既存製品の改良・改善や新製品の開発業務などにも関わっています。

TS課は製品販売に密接に関係しております。お客様が要望される条件を満たすためのテストには始まり、次の段階として装置の受注につながる引き合いテストを担当します。お客様のテストでは、一人ひとりがお客様に向き合い、チーム一丸となって取り組みます。「安心して任せられる」とお客様に感じていただけるように、正しい知識のもと、細やかで丁寧な説明を行いながら、コミュニケーションを通じて、お客様に頼りにされる技術者になることを常に心掛けています。

菅野 「ペンとインク」をビジネスモデルとする当社は、機械装置だけを販売している会社ではありません。特にTS課には、造粒やコーティングに関する技術的な知見やノウハウなどが蓄積されていますし、それが当社の特長にもつながっています。これらの技術力を今後さらに伸ばしていくと同時に、DXなどを活用しながら、属人化している技術の伝承・共有に取り組んでいきます。また、そうした技術ノウハウを新製品の開発にも活かしてまいります。

齋 TS課は重点施策の一つに「技術ノウハウを積極的に広める」ことを掲げており、現在私は、当社主催の研修会開催をはじめ、技術ノウハウの発信に取り組んでいます。また、当社機械装置のメンテナンス動画を撮影してお客様に提供することで、顧客満足度の向上にも取り組んでいます。お客様とのコミュニケーションの際には、お客様が抱えていらっしゃる課題と私たちの認識が一致しているかを常に意識するように心掛けています。

瀧上 私は入社してまだ4カ月で、現在は造粒技術やコーティング技術を学びながらテスト業務の準備や補助などに携わっています。TS課としては、機械装置を動かす技術やノウハウを標準化していく必要があると思いますが、個人的にはそうした技術や技能を身に付けて、一日も早く一人立ちできる人財になりたいと考えています。技術的な部分だけではなく、お客様とのコミュニケーションについても、あるべき姿を先輩方から学んでいきたいです。

味園 TS課のメンバーには、一つ一つのテストに真摯に向き合い、医療や食の安全・安心に貢献できる人財になってほしいですし、私自身もそうありたいと思います。そういう人財を目指し続けることが、TS課の存在意義につながると考えています。



多様性の
視点から

浜松テクニカルセンター TS課

瀧上 友佳子

当社の機械装置が使われる現場には女性もいらっしゃいます。操作時の利便性など、女性ならではの視点から、改善・改良に携わっていききたいと思います。

積極的なコミュニケーションのもと、新たな発想による製品開発を担う 化成品開発メンバーに話を聞きました。



写真左より:武田、阿井、深澤、森本

化成品事業本部

化成品開発部 統括部長

武田 和久

開発課 課長

森本 泰明

開発課 (添加剤担当)

阿井 敬佑

開発課 (品質保持剤担当)

深澤 斗希也

武田 当事業本部の開発課には、12名が所属し添加剤と品質保持剤それぞれの開発をメインに行う2つのチームがあります。もともと別の部署でしたが、集約によるシナジーを期待して、2023年初めに開発課に統合しました。添加剤は、固形の医薬品やサプリメントの生産性向上、また、医薬品の服用のしやすさや機能を高めるために添加するものです。品質保持剤は食品に同梱する小さなパックで、カビなどの微生物の増殖を抑えるとともに、食品のおいしさを長持ちさせて賞味期限を延長するものです。開発課ではメンバー間のコミュニケーションを大切にして、対等な立場で自由闊達な議論ができる環境づくりを重視しています。

森本 添加剤チームでは、製剤用核粒子という製品について、より服用しやすいようにより小さく、より取り扱いやすいように、削れない・壊れないといった付加価値を高める開発を進めています。さらに、複数の化合物を特殊な加工技術により複合化するコプロセス添加剤の領域で、当社の造粒技術を用いた付加価値の高い製品の開発に取り組んでいます。品質保持剤チームでは、環境配慮型製品の開発に注力しています。開発業務以外にも、既存製品の拡販に向けた応用技術資料の充実を図っています。また、それらの資料をもって営業部門と連携を取りながら、ターゲット層へのプロモーション方法に関する検討を進めるなど、『ONE FREUND』を実践しています。

阿井 当社の技術開発研究所には、大型から小型まで多くの機械装置が揃っているため、開発を検討する際の選択肢が多いです。また、機械に関する高い専門性をもった同僚が多く、機械装置の改良などを相談しやすい環境にあるため、部署の内外を問わず、積極的にコミュニケーションを図り、新しい情報に触れることで開発のヒントを模索しています。私は入社6年目で、今は開発の専門性を高めることが最優先課題ですが、製造・品質管理やマーケティングに関する知識も身に付けていきたいと思っています。多角的な視点での開発を実現していくためにも、将来的には様々な部署を経験して経験値を高め、最終的にはそれらを活かして新製品開発につなげたいと考えています。

深澤 常にアンテナを高くして、あらゆる分野の情報収集を心掛け、画期的な新製品開発を目指しています。新製品開発以外にも、営業や生産の部門と連携して、既存製品の安定供給や拡販に向けた施策の検討、お客様ニーズへの対応などに取り組んでいることが、新製品開発の新たな気付きにつながっています。経営ビジョンにある「豊かな未来を届ける」には環境への配慮が含まれます。品質保持剤の開発担当として、当社が市場の先駆けとなれるよう、環境配慮型製品の開発に取り組んでいきたいと思っています。

武田 製品開発に重要な新たな発想や着想は、いくつもの情報、事象、また個々人の気付きやアイデアがコミュニケーションを通して有機的につながることで、さらに次の発想につながれるものだと思います。皆がコメントしているように、現在でも営業や生産の部門と連携の場が多い状況ですが、新中計ではコミュニケーションのさらなる活性化のためにも、部門間の人材交流を積極的に実施していきたいと考えています。

CO₂排出量の70%を削減。

株式会社メディセオと共同で医薬品添加剤輸送におけるモーダルシフト^{*}を開始。

当社は、温室効果ガス削減及び物流2024年問題への対応の一環として、製品の製造拠点である浜松事業所から岡山センターまでの輸送に鉄道コンテナ輸送を利用することで、医薬品添加剤輸送におけるモーダルシフトを開始しました。

この取り組みは株式会社メディセオとの共同プロジェクトとして、日本石油輸送株式会社、日本貨物鉄道株式会社、日本フレートライナー株式会社とも協力して実施しています。コンテナの調達、列車へのコンテナ積み替えなどを含む物流工程において、各社のもつ技術・ノウハウを活用しています。



上:積み込みの様子 / 中:鉄道輸送の様子 / 下:浜松事務所

モーダルシフトによって見込まれる成果



① 温室効果ガス排出量を削減

浜松事業所（静岡県浜松市）から岡山センター（岡山県岡山市）への医薬品添加剤輸送において、従来の大型トラックによる陸送では年間約8.2トンの温室効果ガスを排出していました。本取り組みにより、70%にあたる約5.8トンの温室効果ガス排出量削減が見込まれます。



② ドライバーの労働環境改善

静岡県から岡山県への陸送は長時間乗務となるため、ドライバー2名体制やリレー乗務体制が必要となります。本取り組みでは長距離輸送を列車で行うため、ドライバーの労働環境改善と、物流コスト削減につながります。



③ 事故・遅配の低減

輸送手段をトラックから列車に変更することで、交通事故や遅配のリスクが低減されます。より安全に確実な輸送手段となります。

今後、岡山センターから医薬品メーカーの工場への配送についても、モーダルシフトの実施を検討しています。当社は、サステナビリティ活動の一環として本取り組みを実施し、拡大してまいります。さらに今後も企業活動を通じて様々な側面から持続可能な社会の実現を目指してまいります。

^{*}モーダルシフト:トラック等の自動車で行われている貨物輸送を、環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へ転換すること。

役員紹介

名誉会長・取締役



名誉会長
伏島 靖豊



代表取締役社長
伏島 巖



取締役
本田 稔昭



取締役
守口 壽文



社外取締役
田中 尚

選任理由

経営者としての豊富な経験と幅広い見識を兼ね備えており、経営監督及びコーポレート・ガバナンス強化に寄与できると判断したことから選任いたしました。



社外取締役
久米 龍一

選任理由

製薬業界における豊富な経験と幅広い見識を有する経営者であり、経営監督及びコーポレート・ガバナンス強化に寄与できることをから選任いたしました。

監査役



常勤監査役
平野 栄

選任理由

財務及び会計に関する知見及び経営全般に優れた見識を兼ね備えており、経営監督能力を十分に発揮できると判断し選任いたしました。



社外監査役
泉本 小夜子

選任理由

長年にわたる公認会計士の経験と、財務及び会計に関する豊富な見識を活かし、社外監査役としての職務を適切に遂行いただけるものと判断し選任いたしました。



社外監査役
濱田 和成

選任理由

弁護士としての専門的な知識・経験を有し、法律専門家として客観的な立場から、社外監査役としての職務を適切に遂行いただけるものと判断し選任いたしました。

スキルマトリックス

	氏名	在任年数	取締役会及び監査役会への出席状況	諮問委員会		当社が期待する分野								
				指名報酬委員会	指名報酬委員会委員	企業経営・トップ経験	マーケティング・営業	財務・会計	IT・セキュリティ	人事・労務・人材関係	法務・リスクマネジメント	グローバル経験	製造・開発・研究開発	ESG・サステナビリティ
取締役	重任 伏島 巖	16年	12回/12回	指名報酬委員会委員	●	●					●			
	重任 本田 稔昭	3年	12回/12回				●				●	●	●	
	重任 守口 壽文	1年	8回/8回				●				●	●	●	
	重任 田中 尚	3年	12回/12回	指名報酬委員会委員長	●			●	●	●	●	●	●	
	重任 久米 龍一	1年	8回/8回	指名報酬委員会委員	●	●					●	●		
監査役	現任 平野 栄	5年	取締役会:12回/12回 監査役会:17回/17回		●			●			●	●		●
	現任 泉本 小夜子	7年	取締役会:12回/12回 監査役会:17回/17回	指名報酬委員会オブザーバー				●	●		●			
	現任 濱田 和成	3年	取締役会:11回/12回 監査役会:16回/17回	指名報酬委員会オブザーバー							●	●		

サステナブル経営基盤

コーポレート・ガバナンス

当社グループは、株主・投資家やユーザーの皆様をはじめ、全てのステークホルダーの視点から、企業の透明性を高め、法令遵守、公正性、独立性を確保することを通じ、企業価値の継続的な向上を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本方針・目的としております。

基本的な考え方

当社は、企業理念『創造力で未来を拓く®』のもと、経営ビジョンである“「なくてはならない」技術に挑み、健やかで潤いのある生活を支える。”の具現化に向け、事業活動を行っております。公正で適正な競争を通じて、お客様の役に立つ製品やサービスを提供し、適正な利益を追求するプロセスを通して企業価値を高めていくことを目指しております。

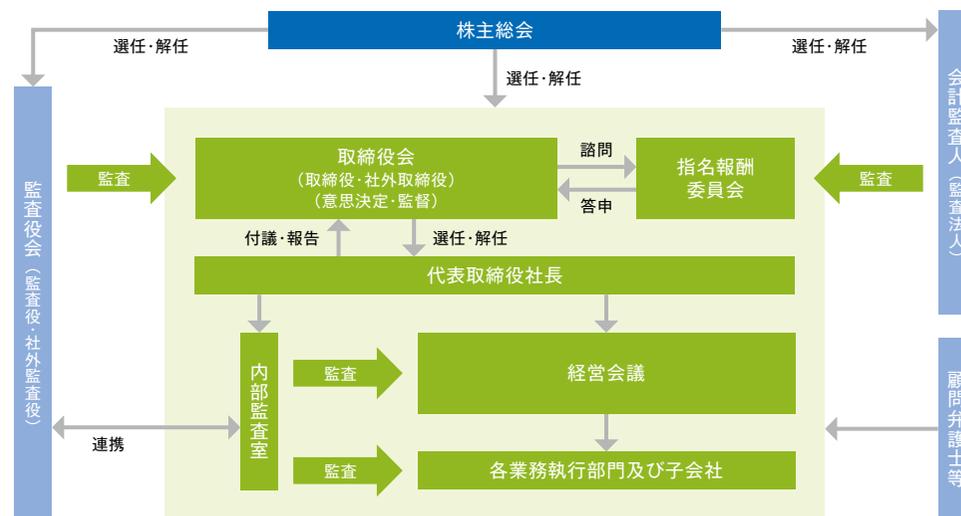
コーポレート・ガバナンス体制の概要

当社は、取締役会、監査役会及び会計監査人を設置しております。業務執行は執行役員が行い、取締役会は当社グループ全体の経営方針や目標を定め、グループ各社の経営及び業務執行を監督しております。取締役会は、経験、知見、専門性に多様性を持つ5名（内2名は社外取締役）で構成され、原則として月1回開催しております。取締役会には、社外監査役3名（内1名は常勤監査役）も参加し、適切かつ迅速な意思決定と監督機能の一層の強化を図っております。監査役は、社長直属の内部監査室や会計監査人と連携を取り、監査の実効性を高めております。

より詳細な情報につきましては、
当社ウェブサイト「コーポレート・ガバナンス」をご参照ください。

<https://www.freund.co.jp/company/governance.html>

コーポレート・ガバナンス体制 (2024年5月末現在)



内部統制の基本的考え方と体制概要

当社は、内部統制を、「経営者が業務執行組織を統制する仕組み」と捉えています。取締役会は、会社法その他の関連法規、当社定款及びその他の社内規程に基づき、当社グループ各社の内部統制の基本設計を行い、内部統制の整備・運用及び評価につき監督する責任を負います。

『創造力で未来を拓く®』という企業理念を掲げ、このベースとなる企業の社会的責任を全うするため、コンプライアンスの浸透とリスク管理体制の確立に取り組んでおり、コンプライアンス・リスク管理委員会と内部統制を総合的に運営する内部統制委員会を設置しております。

当社グループは、リスクを企業活動に潜在し、当社グループの社会的信頼または企業価値を損ねるおそれのある事例と捉えています。当社グループの事業は、以下に記載する様々なリスクに晒されており、リスクの顕在化により予期せぬ業績の変動を被る可能性があります。これらのリスク発生の可能性を認識したうえで、可能なかぎり発生の防止に努め、また、発生した場合は迅速・的確に対処する方針です。ただし、全てのリスクを網羅している訳ではありません。なお、本項に含まれる将来に関する事項は、2024年2月期末時点において把握したものです。

事業上のリスク

- | | |
|----------------------|-------------------|
| ① 経済環境及び市場動向に関わるリスク | ⑨ 為替変動に関わるリスク |
| ② 業界動向に関わるリスク | ⑩ 知的財産権に関わるリスク |
| ③ 原材料等の調達に関わるリスク | ⑪ 製造物責任に関わるリスク |
| ④ 業務提携先との関係等に関わるリスク | ⑫ 公的規制等に関わるリスク |
| ⑤ 海外における事業活動に潜在するリスク | ⑬ コンプライアンスに関わるリスク |
| ⑥ 価格競争に関わるリスク | ⑭ 情報漏洩によるリスク |
| ⑦ 人材の確保に関わるリスク | ⑮ 固定資産の減損リスク |
| ⑧ 自然災害等に関わるリスク | |

各リスク項目の詳細につきましては、
当社ウェブサイト「コーポレート・ガバナンス/リスクマネジメント」をご参照ください。

<https://www.freund.co.jp/company/governance.html>

今後注視すべきリスク

24/2月期は、新型コロナウイルス感染症対策緩和による経済正常化に向けた動きや、雇用や所得環境の改善の動き等から景気回復への期待が高まってきましたが、ウクライナ及び中東情勢の悪化といった地政学的な緊張、円安による物価上昇の継続等により、不透明な状況が続いております。今後注視すべきリスクとしましては、以下を認識しております。

業界動向に関わるリスク

日本では、継続的な薬価引き下げに加え、ジェネリック医薬品業界で発生した品質・安定供給問題を契機に、製薬業界再編の動きが始まっております。このような動きのなかで当社グループは、2020年11月にイタリアCos.Mec S.r.l.(現:Freund S.r.l.)をM&A、2021年7月に上海FCセンターを設立するなど、海外市場でのプレゼンスを高め、医薬品分野のグローバル展開を加速するとともに、非医薬分野である化学、食品、電池業界などに関連する機械事業、化成品事業を推進し、展開地域及び事業領域の拡充を図っております。

海外における事業活動に潜在するリスク

世界各国の財政・医療政策動向が製薬会社の経営に影響を与えます。米国をはじめ、先進国の製薬会社は製造をコストの安い新興国に移転するなどコスト低減策を講じています。事業拡大に関する当社グループの重点国・地域は、人口・所得の伸びが見込まれる中国、東南アジア、アフリカ、中南米などの新興国であり、これら国・地域で事業展開することに関するリスク管理が求められます。このため、国別・地域別の情勢把握、戦略の立案、個々の取引のモニタリングなどを強化しております。

フロイントグループ 10ヵ年連結財務データ

(単位:百万円)

	2015年2月期	2016年2月期	2017年2月期	2018年2月期	2019年2月期	2020年2月期	2021年2月期	2022年2月期	2023年2月期	2024年2月期
会計年度										
売上高	17,424	19,027	21,164	19,801	18,408	16,772	16,765	17,632	19,658	22,903
売上原価	11,978	12,921	14,343	12,985	12,220	11,344	11,126	11,620	13,665	15,859
販売費及び一般管理費	4,295	4,759	4,779	4,845	4,964	4,870	4,528	5,030	5,541	5,773
営業利益	1,150	1,346	2,041	1,971	1,223	558	1,111	981	451	1,270
親会社株主に帰属する当期純利益(純損失)	695	961	1,064	1,477	843	381	970	543	△538	764
EBITDA ^{※1}	1,473	1,692	2,393	2,332	1,598	950	1,599	1,639	1,113	1,824
機械受注高	12,407	13,112	16,358	11,513	11,839	10,227	12,386	15,621	14,630	18,600
機械期末受注残高	6,682	7,086	8,561	5,822	5,428	4,695	6,615	10,574	12,826	15,842
減価償却費	308	321	338	344	344	386	461	570	565	539
研究開発費	592	687	640	862	832	725	526	580	622	634
営業活動によるキャッシュ・フロー	822	290	3,605	594	435	△27	2,280	701	△196	2,368
投資活動によるキャッシュ・フロー	△240	△432	△351	△493	△566	△852	△1,726	△680	△666	△739
財務活動によるキャッシュ・フロー	△284	△331	△277	△499	△921	△325	△371	△427	451	△874
会計年度末										
総資産	17,277	17,206	19,101	19,125	17,465	18,505	20,575	22,273	22,758	25,789
純資産	11,180	11,529	12,185	13,242	13,250	13,243	13,858	14,354	14,117	15,023
(うち自己資本)	10,987	11,529	12,185	13,242	13,250	13,243	13,858	14,354	14,117	15,023
1株当たり情報^{※2}										
当期純利益(EPS、円)	40.36	55.74	61.72	85.69	50.15	22.79	57.96	32.46	△32.15	45.46
純資産(BPS、円)	637.19	668.57	706.62	767.91	791.34	790.94	827.67	857.28	843.09	889.03
配当金 ^{※3} (DPS、円)	15.00	25.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
主な指標										
営業利益率(%)	6.6	7.1	9.6	10.0	6.6	3.3	6.6	5.6	2.3	5.5
総資産利益率(ROA、%)	4.0	5.6	5.6	7.7	4.8	2.1	4.7	2.5	△2.4	3.2
自己資本利益率(ROE、%)	6.6	8.5	9.0	11.6	6.4	2.9	7.2	3.9	△3.8	5.3
配当性向(%) ^{※4}	37.2	22.4	32.4	23.3	39.9	87.8	34.5	61.6	—	44.0
自己資本比率(%)	63.6	67.0	63.8	69.2	75.9	71.6	67.4	64.4	62.0	58.3

※1 EBITDA=営業利益+受取技術料+減価償却費+のれん償却費

※2 当社は、2016年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行いました。2015年2月期の期初に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり情報」を算定しております。

※3 記念配当2.50円(2015年2月期)、5.00円(2017年2月期)含む。

※4 2023年2月期の連結配当性向については、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しているため記載しておりません。

会社概要

商号	フロイント産業株式会社
設立	1964年4月22日
資本金	10億3,560万円
連結従業員数	468名
本社所在地	〒160-0023 東京都新宿区西新宿6丁目25-13 フロイントビル
ホームページ	https://www.freund.co.jp
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場(証券コード 6312)
事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月開催
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
発行済株式総数	18,400,000株
株主総数	21,203名

大株主の状況

	持株数(千株)	持株比率(%)
(株)伏島揺光社	1,648	9.75
伏島 靖豊	1,217	7.21
PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	1,211	7.17
(株)三菱UFJ銀行	836	4.95
(株)三井住友銀行	744	4.40
(株)大川原製作所	673	3.99
フロイント従業員持株会	443	2.63
(株)静岡銀行	368	2.18
明治安田生命保険相互会社	360	2.13
伏島 巖	298	1.77

自己株式1,501千株(8.16%)を保有しております。
持株比率は自己株式1,501千株を控除して計算しております。

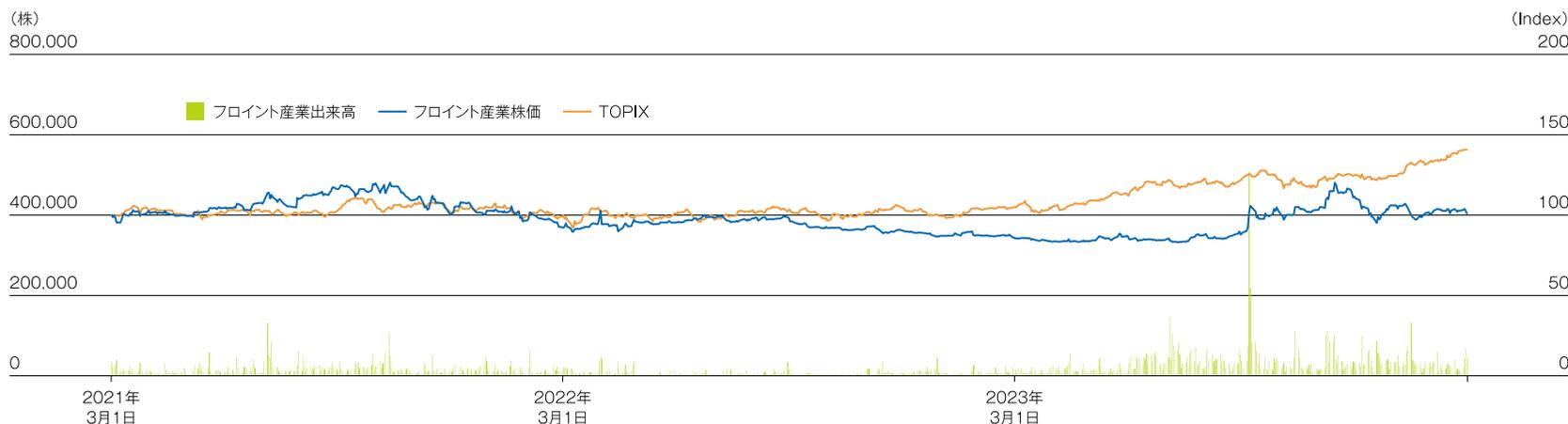
所有者別株式分布状況



	持株数(千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合
金融機関	2,495	13.56%
金融商品取引業者	387	2.10%
その他法人	2,986	16.22%
外国法人等	1,780	9.68%
個人・その他	10,752	58.44%

(注) 自己株式は「個人・その他」に含めて記載しております。

株価・出来高・TOPIXの推移



(注) 本チャートは、分割前の株価及び出来高を遡及修正した、調整後株価・出来高にて作成しています。フロイント産業とTOPIXの値は、2021年3月1日の終値データを100としています。

フロイント産業株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-25-13 フロイントビル

このフロイントレポートに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

経営企画部 Tel 03-6890-0767 Fax 03-6890-0870 E-mail ir@freund.co.jp URL <https://www.freund.co.jp>

